

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出できる学校	
(2)	育みたい児童生徒像	○礼儀やマナーをしっかりと身につけた上で、生きて働く知識・技能を備えるとともに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を持ち社会に貢献できる人材 ○様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題解決ができる能力を持ち、社会人として活躍できる人材
	ありたい教職員像	○ 目指す学校像の実現に向け、教職員が自らの専門性を高めるとともに互いに協力し合い組織一丸となって教育活動に取り組む職員集団 ○ 優れた人権感覚と社会人としての良識に富み、生徒や保護者との間に信頼関係が築ける教職員 ○ コンプライアンスを遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>(生徒)約 48%の生徒が地元企業への就職を希望し約 51%が上級学校への進学を希望している。就職では事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実した部活動に期待する生徒が多い。</p> <p>(保護者)学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。</p> <p>(企業)商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。</p> <p>(地域)地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>(家庭)適切な連絡や学校からの情報提供、相談体制の充実</p> <p>(中学校)卒業生による説明会への参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報の提供</p> <p>(企業)就職後のアフターフォローと生徒情報の提供</p> <p>(大学等)高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会の設定</p> <p>(地域社会)開かれた学校づくり、地域との連携や協働活動、情報共有機会の増加</p>	<p>(家庭)学校行事や PTA 活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制</p> <p>(中学校)適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換</p> <p>(企業)積極的な求人、インターンシップ等への理解・協力</p> <p>(大学等)卒業生の受け入れ、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携、キャリア教育・授業改善への取組</p> <p>(地域社会)通学等の安全確保や学校への様々な協力、支援</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統である礼儀やマナー教育は大切であり、引き続き指導していくべきである。 ・酒商生としての「自覚」を持たせる指導も必要である。 ・校則は、酒商として大事にしたいところは残しつつも、今の時代や生徒の自主性を考慮して内容を決めていくべきである。 ・事故を減らすためには自転車の運転マナー指導は大切である。ヘルメット着用を促していくとともに、安全対策を講じていく必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から実施している観点別評価に向けた学習内容の改善・充実が必要。基礎学力の底上げはもとより、企業や地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。 ・「人間教育(人づくり)」については、基本的な生活習慣を確立した上で、酒商の良き伝統を大切にしながら、質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていく。 ・部活動については、学業との両立および教員の過度な負担の軽減のバランスを考えながら強化に取り組む。

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を年次進行で実施する中で、各教科で学習内容の検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。カリキュラムマネジメントを行う上で、カリキュラム委員会での積極的な議論が必要。 ・地域との連携や課題研究などの効果的な取り組みをさらに進めるとともに、ウェブサイトやメディアの活用等PR活動にも積極的に取り組み、本校の情報発信を一層進める必要がある。 ・職員の仕事の偏りや時間外労働の縮減に取り組むとともに、風通しの良い職場環境の構築を行い、職員の情報共有・コミュニケーション機会を増やす。
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓である「至誠」の示す人間教育を大切にしながら、変化の激しい社会で求められる資質・能力を把握したうえで「本校の目指す生徒像」にある人材を育成していく。 ・学校の諸活動を通して生徒の自主性・主体性を向上させる取り組みを進めていく。 ・教員が主体的にカリキュラムマネジメントに基づき、授業改善、教育改善を行う。 ・「思考力」「判断力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を授業、特別活動、部活動などを通して学校教育全体で育てていく。 ・狭い範囲の人間関係に留まることなく「地域の大人」「他校の生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力を育む探究活動に取り組む。 ・部活動の強化と人間力向上のための部活動・特別活動とのバランスを考えて活動に取り組む。その状況下で、どのように教員の負担軽減を図るかを考慮していく。 ・GIGA スクール構想の下、タブレット端末を有効活用して多様な学びを進め、環境の変化や課題に的確に対応できる生徒を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な資格試験や大学入試、新学習指導要領への適切な対応を進める。特に観点別評価については、評価を実施しながらより良い評価につながるよう常に見直しを図る。 ・進学希望者が増加する中で、多様な進学方法に対応し、個に応じた進学体制づくりを行う。 ・授業改善・進路指導につなげることで「就職も進学も強い西商」「多様な進路」「地域貢献できる学校」を中学生とその保護者にPRし、生徒確保と地域における評価につなげる。 ・風紀、週番制度の活用など生徒の自主性・主体性を向上させることにより教員の負担軽減につなげる。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<p>(1)教科会の活用、授業参観週間・公開授業の実施等により、授業力の向上を目指す。</p> <p>【活動指標】教科会の活用、授業参観・公開授業の実施・生徒アンケート実施</p> <p>【成果指標】公開授業延5日以上、生徒アンケートでの授業理解度80%以上</p>	<p>(1)年4回カリキュラム委員会を開いて、評価や教育課程など様々なことについて協議した。中学生や保護者対象に授業公開を行った。授業の様子がよく分かったという回答が96%であった。他校の教員対象に公開授業延8日実施。生徒アンケートの結果、授業の理解度93.0%、満足度96.8%と</p>	◎

		高い値となった。	
キャリア教育 と探究活動 の充実	<p>(1) 商業科独自に検討委員会を設置し、ビジネス基礎や課題研究の学習内容を検討する。</p> <p>【活動指標】検討委員会を年3回開催し、特に外部機関と連携した2年生の11月以降の探究活動について教科会へ具体案を提示する。</p> <p>【成果指標】2年生の課題研究で、1回以上外部機関と連携した探究活動を実施する。みえ創業チャレンジスクール事業に参加し、ワークショップを取り入れた探究活動を実施する。1年生にビジネス基礎についても学期に1回以上探求活動を実施する。</p>	(1) 2年生課題研究で、企業・大学・支援団体と協力し近鉄百貨店に誘客に係る提案をし、1年生も学期に1度以上の探求プログラムを実施した。	
進路指導	<p>(1) 生徒一人ひとりの進路実現に向けて具体的な指導・助言を行う。</p> <p>【活動指標】各学年の進路指導計画に基づき、進路実現100%を目指す。</p> <p>【成果指標】年間で3年生7回・2年生3回・1年生2回の進路講話を実施</p>	(1) 進路実現100% 進路通信9回発行 進路講話3年全体2回・就職4回・進学4回、2年2回、1年1回実施。	
生徒指導、 生徒会活動	<p>(1) 社会で活躍し、地域に貢献できる人づくりを行う。そのため、礼儀やマナーをしっかりとわきまえ、規律を守る、高い規範意識を持つことに加え、他者を尊重し、関りを大切にする生徒の育成を目指す。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風紀週番制度を社会に出るためのトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人一人の責任感、協調性を養う。 ・全教職員による、あいさつの励行、身だしなみの指導 ・遅刻者数の減少の取り組み(遅刻回数5回毎に生指主任から注意、保護者連絡) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番忘れによるやり直し率 10%以下 ・学校生活アンケートで基本的な生活習慣が身についた90%以上、挨拶など礼儀が身についた95%以上、遅刻率0.3%以下(遅刻率=遅刻者数/(在籍者数×授業日数)×100) <p>(2) 交通安全指導の徹底を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外において登下校指導(年間20日各5ヶ所)を通じ登下校時のマナー向上を図り、交通安全に対する意識を高める。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導による指導生徒数5人以下および苦情件数前年度比半減 ・自転車事故件数0件 <p>(3) 部活動・生徒会活動の充実と部活動を通じた人づくりを行う。</p> <p>【活動指標】部活動・生徒会活動を通じて生徒の主体性の向上を図る。</p>	<p>当番忘れや欠席によるやり直し率は11.0%(風紀のべ人数294人・週番のべ人数1320人、計1614人。風紀週番やり直し人数のべ178人)となり、前年比0.6%減。</p> <p>遅刻率は0.34%で、前年比0.13%減。</p> <p>登下校指導生徒数は9人。苦情件数は2件であった。</p> <p>自転車の事故が14件(昨年度末20件)。</p> <p>全国大会出場10クラブ、東海大会出場13クラブ。</p> <p>定期的なミーティングを開催し挨拶運動を実施し、生活面の向上に取り組んだ。</p>	

	【成果指標】東海大会出場 15 クラブ以上、全国大会出場 10 クラブ以上、学校生活アンケートで「部活動への取り組みが熱心になった」割合が 85%以上。生徒が主体的に活動する生徒会活動。		
--	---	--	--

改善課題

・昨年度から P T A 総会の日に合わせて、中学生と保護者対象の授業公開を実施している。商業の授業や部活動の様子もよくわかると好評であった。10月の平日の夜7時から、市の施設において学校説明会を実施し、約200人集まった。参加者からは、夜なので参加しやすかったと好評であった。11月に授業公開を5日間実施しているが、外部からの参加者が少なく、アドバイスや指摘を得られにくい現状である。授業公開の実施方法も工夫が必要である。

・昨年度から減少したものの通学中の自転車事故が多く、引き続きルールやマナーの指導とともにヘルメット着用の推奨などが必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)計画的な教職員研修の実施 【活動指標】職員対象の人権研修を年間2回以上、SCによる教育相談研修を1回以上、保健部による応急救護処置等の研修会を1回以上実施	(1)エピベン講習、救急救命講習会、カウンセリング研修を実施。 職員人権研修を年2回実施。 計画的な休暇及び管理職面談等において、休める時には休暇を取って休むことを呼びかけ、概ね達成できた。	◎
魅力化アップと情報提供による信頼の構築	(1)課題研究で、商業高校の魅力が伝わる体験講座やPR動画などを作成し高校生活入門講座の充実を図る。生徒満足度をもとに外部へ提供する情報内容の見直しを進め、情報発信の充実を図る。コミュニケーションツールとしてのGoogle Classroomの活用を一層推進する。 【活動指標】ポスターは年1回、チラシは年2回発行する。学習活動を中心とした学校案内の充実を図る。	課題研究の講座でPR動画を作成し、四商の魅力や特徴をまとめた動画をHPに掲載。高校生活入門講座の参加人数は、中学生・保護者約650名	◎
人権教育・特別支援教育の充実	(1)人権教育を充実し、命を大切にす教育を行う。 【活動指標】年間8回以上の人権教育推進委員会の開催、各学年が各学期に1回以上人権HRや講演会等を実施 (2)生徒一人ひとりの状況にあわせ職員間の連携を密にし、情報共有を図り、生徒にとって安心安全な環境を整える。特別支援教育委員会や教科担当者会議などを通じて、生徒の状況把握・情報交換・情報共有に努め、合理的な配慮を行う。	(1)人権教育推進委員会を年7回実施。各学年が各学期に人権LHRや講演会を実施。 (2)保健通信8回発行 特別支援教育委員会5回実施、生徒状況に応じた教科担当者会議、ケース会議実施、カウンセラー通信生徒向け・職員向け計4回発行	

	<p>【活動指標】保健通信を月1回(年12回)発行、特別支援教育委員会を年間5回以上、教科担当者会議も随時実施し、生徒の状況に応じ個別の支援計画を立てる。</p>		
働きやすい職場環境づくり	<p>(1)総勤務時間の縮減に向け年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。</p> <p>【活動指標】設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上</p> <p>予定通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上</p> <p>放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 95%以上</p> <p>【成果指標】時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人</p> <p>時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人</p> <p>1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下</p> <p>1人当たりの年間休暇取得日数 10日以上</p> <p>(2)不祥事根絶のためコンプライアンス研修を学期に1回以上実施し、学校信頼向上委員会を定期的で開催するなど、職員のコミュニケーションの機会を増やし、働きやすい環境をつくる。</p>	<p>(1)設定した定時退校日に退校できた職員の割合95%、放課後に開催した会議のうち60分以内に終了した会議の割合98%。</p> <p>360時間を超える教職員数、12人。</p> <p>時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 39人。1人当たりの月平均時間外在校等時間 16.6時間。</p> <p>1人当たりの年間休暇取得日数 18.7日。</p> <p>(2)コンプライアンスミーティングを各学期2回実施。グループワークを取り入れるなど、職員間の意見交流を図った。</p>	※

改善課題

- ・コンプライアンス研修においてグループワークを実施するなど計画した教職員研修は予定通りに実施できたが、実施回数でなく常にコンプライアンスを意識する働きかけが必要である。
- ・タブレット端末の普及が進む中 GIGA スクールサポーターをより活用し、全職員が授業における情報機器の活用方法を習得して、ICTを取り入れながら授業改善を進める必要がある。
- ・時間外労働の削減を図る取り組みをしているが、管理職による声かけ等により結果につながっている。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年連続定員割れの状態を改善するため、泗商の強みをアピールすることができたのではないかな。 ・外向けの発信だけではなく、校内に設置したスクリーンで在校生の校内外での活動を紹介していることは頑張っている生徒を称える意味で大きい。 ・学校案内のリーフレットが、中学生が知りたい情報と高校生の生の声が届く工夫がされており、興味がわく仕上がりとなっている。 ・今年度、平日の夜の時間帯に開催した学校説明会は、保護者や中学生にとっては参加しやすかったのではないかな。 ・進路実現に向け、より具体的な紹介があるとさらに良くなるのではないかな。 ・地域とともに歩む学校として、防災訓練や地域の行事に積極的に参加することも続けてほしい。 ・PTA役員との協働した学校行事は、今後も続けてほしい。 ・交通事故を減らすために自転車の運転マナー指導は大切であり、交通安全指導とともにヘルメット着用を促して安全対策を実施してほしい。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・今年度より観点別評価を実施した中で課題となる点を見つけ、改善をしていくと同時に授業方法も見直し、「指導と評価の一体化」を一層図っていく。・授業アンケートの結果だけでなく、授業公開の方法、対象、日数等を見直し、多くの人に授業を見てもらえる環境を整え、外部からの助言や意見を聞き授業改善を一層進める。・風紀週番制度においては、体調不良の生徒が多く、また、交代する週初めの当番忘れが多かった。来年度も引き続き各生徒の自覚と責任を促していきたい。・減らすべき不注意遅刻(寝坊など)以外の遅刻も含めたためやむを得ない部分もあるが、遅刻数は基本的な生活習慣の指標ともいえるので引き続き取り組みたい。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・一部の教員への過剰な業務量を減らすため、分掌・学年等の人数や役割分担の再考を行う。職員が互いに声を掛け合い、繁忙期には業務を分けたり、手助けできる職場環境を構築する。・様々な理由で学校に登校しづらい生徒が増加している状況の中、普段からいじめや人間関係のトラブル等について常にアンテナを高くし、学年会、教育相談委員会、特別支援教育委員会、人権教育推進委員会等、それぞれの立場で情報共有を常に行うとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、発達障がい支援員などを活用し適切な支援を実施する必要がある。・次年度は、ホームページをリニューアルし、スマートフォンにも対応させることで、効果的な情報発信をしていく。